

1 学年でプレゼン講座を実施しました！

12月2日(水)に群馬大学の弓仲康史准教授をお迎えし、“「伝える力」～効果的に伝わるプレゼンテーション、コミュニケーション技法～”というタイトルで1学年を対象に講演をしていただきました。

<生徒の感想より抜粋>

今回のプレゼン講座では、いかに効果的に伝わるプレゼンテーションを行うのかということもさることながら、そもそもコミュニケーションとは何たるかについて学ぶことができました。コミュニケーションとは、「自分の言いたいことを伝えることではなく、相手が必要としている内容を伝えることである。コミュニケーションの上手な人は、自分の思うままに話しているのではなく、常に相手の立場に立って、相手のことを考えながら会話をするのだ。」ということです。また、話が長く盛り上がるかは、相手への「おもてなし」の心で決まるのだということも知りました。これは、プレゼンテーションにも通ずるものであり、やはり相手に分かりやすく興味をもって聴いてもらえるような「おもてなし」の工夫が大事だと感じました。そして、聴いてくれる人たちへの感謝の気持ちも忘れてはならないと思いました。相手と同じ話題を共有できるというのは決して必然ではありません。発表であれ日常会話であれ、各が同じ場に集まるという偶然を大切に、そこに生まれる時間を良い意味で忘れられないものにしたいです。(S君)



ポスタープレゼンのポイント 最初の「**つかみ**」が重要

「詳しく聞きたい」と期待させるタイトル、内容
 話題のキーワード(時事ネタ)、共通の問題点の提起
 期待させる問いかけ(皆さんは～と感じた事ありませんか?)

配色、文字サイズ、図、表の効果的使用
 - 文章ではなく、箇条書きで、色、太字
 - イメージ把握の図、写真(実験写真は必須)
 - 客観的な数値データで説得力UP!

電気自動車の利点は温室効果を引き起こす炭酸ガスの排出が少ないことであると言われていたが、電気モータを駆動するための電池の充電に必要な時間が長いことが欠点とされている。

電気自動車
 利点:CO₂削減(15%)
 欠点:充電時間(6h)

3歩下がって読める文字サイズ
 聴衆者になったつもりで徹底的に工夫!

まず初めに学んだことは、「見せ方」の大切さです。レイアウトや文字の大きさなどの伝える工夫の具体例も見せていただき、改めてその効果を実感することができました。他にも、最初の「つかみ」や図、客観的数字データを用いて説得力を上げたり、一方的に発信するのではなく、聴く人の立場に立って一体感を作ったりすること、プレゼンテーションを効果的にするための技術や心の持ち方などを学びました。これからは、探究基礎の発表をはじめとして、他にもたくさんプレゼンテーションを行う機会もあると思いますので、今回学んだことを生かして

ていきたいです。また、講演中に紹介された「アウトプット大全」などの本も読み、より多くの技術を身に付け実践できるようにしていきたいです。(A君)